

日本学術会議 課題別委員会 フューチャー・アースの推進に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第2回）
議事要旨

1. 日 時：平成 27 年 9 月 24 日（木）13：00～14:00
2. 場 所：日本学術会議 大会議室（2 階）
3. 出席者：氷見山委員長、中静副委員長、小松幹事、武内委員、花木委員、林委員（スカイプ参加）、宮寺委員、毛利委員、山形委員、山口委員、小金澤委員、田中委員、田路委員、日置委員
欠席者：井田委員、福士委員
参考人：春日文子国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長
事務局：千葉次長、石井参事官、松宮補佐、大西専門職、鈴木専門職付
4. 配付資料：資料 1：前回議事要旨（案）
資料 2：持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会年次報告（平成 26 年 10 月～平成 27 年 9 月）
資料 3：フューチャー・アースの推進に関する委員会提言（案）（平成 27 年 8 月 27 日フューチャー・アースの推進に関する委員会配布資料 3）
資料 4：公開ワークショップ開催告知ポスター
参考 1：委員名簿
参考 2：GLP news
参考 3：IYGU Press Release

5. 議 事：

（1）前回議事要旨案の確認

資料 1 に基づいて、前回議事要旨（案）が確認され、了承された。

（2）前期の提言に関連した動向と活動について

資料 2 に基づいて、委員長より、今期に入ってから行われた本分科会の主な活動について説明があった。提言「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」（平成 26 年 9 月）を公表後、同名の公開シンポジウムを平成 26 年 9 月に日本学術会議講堂で開催した。その後、武内和彦委員によるサステイナビリティ学国際会議（コペンハーゲン、平成 26 年 10 月）における関連した基調講演、委員長による日本地球惑星科学連合大会（幕張メッセ国際会議場、平成 27 年 5 月）におけるパブリックセッション（一般公開）「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」の基調講演などが行われた。また、本日の本分科会終了後（平成 27 年 9 月 24 日）には、日本学術会議大会議室にて公開ワークショップ「Future Earth 推進のための教育と人材育成：Co-design/Co-production をどう実践するか」を開催する予定である。

引き続き、これ以外の動向と活動について委員より情報提供があった。

日置委員より、平成 27 年に行われたフューチャーオーシャンの取組み（全国海洋教育サミット－安田講堂、海の日記念海洋フォーラム－日本財団ビル）の紹介があった。

小松委員より、平成 26 年 11 月に東京大学大気海洋研究所で行われたユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）の小委員会による WESTPAC 地域の若手研究者の教育とトレーニングのためのワークショップの紹介があった。

（3）フューチャー・アースの推進に関する委員会の提言について

副委員長より、資料 3 に基づいて、フューチャー・アースの推進に関する委員会（親委員会、安成委員長）において、現在行われている提言とりまとめについての紹介が行われた。資料 3 は今後、文言修正、内容一部変更、分量等の修正が加えられることが予定されている。また、IGBP の国際分担金をフューチャー・アースに移行させることに関する提言を別途作成する方向で調整することとしていたが、現在はこの提言に含めることで調整中とのことであった。

また、委員長より、教育については本分科会が加筆修正の労をとる用意があること、平成 26 年に公表した提言を参照すること等の申し入れを親委員会へ行う旨提案があり、了承された。

(4) 公開ワークショップについて

資料4に基づいて、本日の本分科会終了後（平成27年9月24日）開催予定の公開ワークショップ「Future Earth 推進のための教育と人材育成：Co-design/Co-production をどう実践するか」についての、事前確認（受付、会場レイアウト等）が行われた。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の生徒の参加も予定されているとのことであった。

次に、ワークショップの内容に関連して、委員長より、GLP（Global Land Project）や IYGU（International Year of Global Understanding、国際地球理解年）についての紹介が行われた。具体的には、参考2に基づいて、フューチャー・アースのコアプロジェクトに移行した GLP のニューズレターの紹介が行われた。このニューズレターでは、ランドシステム科学におけるノリッジのコデザイン・コプロダクションが特集されており、「トランス・ディシプリナリー」というフューチャー・アースのコア概念についての国によるとらえ方の違いを指摘しつつ、それを踏まえた上で多様な人々とともに行うことの重要性がまとめられている。続いて、参考3に基づき IYGU の紹介が行われた。ICSU（国際科学会議）、ISSC（国際社会科学評議会）、CIPSH（国際哲学人文学会議）が、2016 年を IYGU（国際地球理解年）と宣言した。これは、人々の身近な行動がどう地球規模に影響を与えるかについての理解を深め、気候変化、食糧安全保障、大規模人口移動に関する軋轢などの深刻な地球規模の問題に対するより良い改善策の追求に資することを目的としている。こうした取り組みは、フューチャー・アースをボトムアップで支える取り組みの1つと位置づけることができるので、ワークショップにおいて紹介する。

(5) 日本科学未来館で開催する次回分科会について

委員長より、次回の分科会の開催予定について、当初、11月中旬のサイエンス・アゴラにあわせ、日本科学未来館で土曜日もしくは日曜日に開催することを検討していた。しかしながら、日本科学未来館で土日に本分科会を開催する場合、日本科学未来館としては日本学術会議事務局職員が出席しなければ、場所を提供することは難しいということだったとの説明があった。

このことに関して、土日に日本科学未来館で開催した場合に日本学術会議事務局員が不在となるのは、無責任ではないかという指摘が委員からあり、この点の事務局の見解について質問があった。

これに対して、事務局より、日本学術会議の規定において、日本学術会議の会議開催は、都内の場合には日本学術会議を用いることを原則としている。また日本学術会議以外で開催する場合は、公務員である日本学術会議の会員の責任において開催していただくようお願いをしているという説明があった。

諸般勘案の結果、委員長より、未来館の活動を見学し、スタッフと意見交換することを踏まえ、平日に日本科学未来館において分科会を開催することが提案され、了承された。

具体的には、11月11日、12日のいずれかの午前中（10時～12時半）に開催することとした。なお、午後には2015年コスモス国際賞受賞者のストックホルム・レジリエンス・センター所長のヨハン・ロックストローム博士の講演会が行われる予定である。こちらは任意参加とした。

(6) その他

山形委員より、Amazon よりコデザイン・コプロダクションなグローバルサステナビリティに関するクラウドの募集が紹介された。

以上